神奈川県立歴史博物館
Kanagawa Prefectural Museum of Cultural History

論題	三代広重と文明開化の錦絵（二）
著者	横田洋一
掲載誌	神奈川県立博物館研究報告―人文科学― 第 19 号
ISSN	0910-9730
刊行年月	1993 年（平成 5 年）3 月
判型	JIS-B5（182mm × 257mm）

三代広重と文明開化の浮世絵（二）

横田洋一

はじめに

文明開化の浮世絵、普通は開化絵と呼ばれる明治期の浮世絵は何を指すのか。端的に言えば日本の西欧化を描いた木版画ということになる。しかし西欧化ということだけでは以前の横浜浮世絵もまた充分にそのことを描いている。

こうした浮世絵版画の西欧化の流れを仔細に見て行くと横浜浮世絵と開化絵の主題の決定的相違は大筋として考えれば民から公共へ、プライヴェイトからパブリックへという点にあるように思えて来る。明治政府の公共投資が家を変え、町並みを変え、橋を変え、また新たな西欧の文物を導入した。さらに江戸期のさまざまな制度、風俗・習慣を改正、廃止し新しく西欧の形を見習った制度・法律を持ち込んだ。こうした施策をいち早く版画の中に取り込んで制作したのが開化絵である。この点が外国人の風俗や外国の商館などプライヴェイトな面を画題にしてきた横浜浮世絵とは全く違うということになる。

また色彩の面でも大きな相違が見られる。一般的に「赤絵」と呼ばれて赤や紫の原色に近い色が画面の大部分を占め、あるいは見るものに強い刺激を与え毒々しい印象を与えたが故に名付けられた名称は正確に言えばこの開化絵のことを指す。横浜浮世も含めてそう考える人もいるが、輸入された赤や紫の化学顔料を本格的に使用するのは明治十年前後からである。いままでの特に江戸期の浮世絵の色に慣れ親しんで来た人に取っていわゆるヴァルールを決定的に変えるが故に耐え難きものがあったのであろう。従って「赤絵」とはまさにこうした作品に対する軽蔑の意味が込められている。このことは現在に於ても同じ意味を持っている。しかしこの強烈な色彩は逆に当時を生きた人々に強い印象となって記憶に留まらせているようだ（注1）。明治二十四年（一八九一）生まれの岸田劉生は幼い頃明治政府の公共投資の象徴である銀座煉瓦街の一角銀座二丁目十一番地の西洋館で育ったがその頃の思い出を「新古細工銀座通」の中で語っている。またこの「赤絵」にたいして日記などで郷愁と親しみを込めて書いている。

さて前回の記述では三代広重の作品の分析を「鉄道開通の頃まで」で終了している。本文はそのあとの広重の作品を論じるわけであるが、この鉄道開通は象徴的な意味を持っていると考える。明治五年、新橋・横浜間を黒煙を吹き上げて走った蒸気車はまさに文明開化の象徴ということになるが、この明治五年前後になってようやく新政府の重要な方針が実行されることになり、急激な改革が始まった。それはこれまで引きずってきた江戸時代に訣別をする通告でもあっ

た。前年の明治四年には廃藩置県が行われ、岩倉使節が欧米に西欧の諸制度、文物の視察に派遣された。また散髪・脱刀令が出された。五年には郵便制度が出来、太陽暦が採用され、同年十二月三日を六年一月一日とした。この年には徴兵令が敷かれ、地租改正が始まった。さらに信仰の自由が確立され必然的にキリスト教を禁ずることもなくなった。これらの制度がすぐに抵抗感なく受け入れられたのではないにしても、人々の生活の根幹を揺るがす形が徐々に固まっていったのである。

国の施策によって変化がもたらされた時期という意味で文明開化の浮世絵はこの頃から始まったと考えたい。広重の作品はお上の施策のもたらす変化を忠実に、そして同時代の絵師を代表するかのように時代の行く末を見つめていった絵師といえる。そこには時代に対する反逆とか抵抗とか、急激に変化する光景を阻止しようとする意図は全く見えず、変化する事物をひたすら取り込んでいる。またそれが江戸の名残の風景と西欧化を急ぐ新たな風景との対比という思わぬ効果を呼んでいる。

注1　「錦絵に見る明治天皇とその時代」丹波恒夫　一九六六年朝日新聞社の中で「『赤い江戸絵』と呼ばれる一連の錦絵があった。その中に確かに汽車の絵や、京都本願寺門跡の北海道ご巡歴、西南戦争、明治天皇東北ご巡幸、靖国神社、明治天皇青山練兵場ご巡幸などの絵があったように記憶している」として自分の明治二十三、四年の記憶を語っている。

這回する文明開化の浮世絵

東京の街は徐々に変わって行く。その変化を浮世絵師たちはめざとく視覚化して見せた。浮世絵を購入した人々はその変貌をまるで居ながらにして散策出来る立場にいた。鉄道の開通工事によって新橋から横浜に至る海岸寄りの景色の変貌は格好の画題となり高輪の海岸や八ッ山下の眺望など今までは話題にもならなかった場所を見せてくれる。また新橋から続く銀座煉瓦街の大工事は全く予想をさせない街を出現させたが、その場所をさまざまな位置から見させてくれる。さらに四方に張り巡らされた江戸時代から続く運河にかかる橋は木の橋から石の橋に次第に姿を変えている。そうした橋を船に乗って川から眺めることも出来る。東京のあちこちに建てられた明治政府の肝入りの諸官庁の建物、和洋折衷のあるいは本格的な西洋建築を見て回ることも出来る。さらに西洋式の公園として造られた上野公園では内国勧業博覧会など国を挙げての行事が行われ明治天皇、皇后も行幸している。九段の招魂社の広場ではフランスからの曲馬団の興業や競馬も行われた。青山の練兵場では天皇の名の元に統一された三軍の兵士達が訓練を重ねている有様も見ることが出来る。江戸城は皇居となり、そのたたずまいは変わらなかったが、周辺は整備されて広場となり、国家的行事を行う場所としても使用された。

江戸時代の浮世絵もまた後期には江戸の名所や旧跡を多く描いていて観るものが居ながらにしてその雰囲気にを浸る事が出来るとい

う点においては同じである。しかし江戸の浮世絵が変わらぬ名所を散策するのに対して文明開化絵は日毎変化する地域を這回するという感がする。

洋風建築空間

いままで見たことのない異質な建物が出現すると辺りの景色は変わる。その典型的な例として慶応三年着工、明治元年に完成した外国人専用のホテル「築地ホテル館」についてはその概要を見てきた。この建物が如何に評判となったかは百種を越える浮世絵版画を見れば分かる。二代清水喜助の設計による長さ約六十メートル、幅二四メートル、高さ一八メートルの鐘楼をも持つ巨大な和洋折衷の建物の出現は周辺の景色を変えた。つまりかなり離れた地域からもその建物は眼に入り、視界の中に取り込まれているということである。三代広重「東京築地波止場ホテル館」（明治五年、大判三枚）は海岸から見た風景で手前に煙をはく蒸気船、遠景として左にホテル、その屋根から微かにのぞく富士がその塔屋より低く描かれているのは象徴的である。正確に云えば鐘楼に近いこの塔に上れば江戸市中を一望することが出来、その意味に於いても人々の視覚空間は変わった。高さでいえば江戸の寺がこれを陵駕するものもあったろう。しかし頂上には誰も上ることが出来なかった。初田享は上野戦争のさなか大半が焼失した寛永寺と対比させて「丁度この頃、築地に建てられつつあった外国人旅館では、建物の本体の工事をほぼ終え、旅館の開業に向けて外構工事が進められていた。江戸幕府から建物の建造を申し受け、工事を進めていた清水喜助（二代）は、何を考えながら大砲の音を聞いていたのであろう。そして、五階にあたる建物の物見からはあたかも目の前に見えたに違いない、がらんの燃え上がる炎を見て、何を思ったのであろうか」と述べている（注1）。このホテルもまた明治五年の大火で灰塵に帰している。従って長く人々の記憶にとどめられ、そして景色を変える役割もまた短命に終わったのである。

その意味では明治五年に竣工した「海運橋三井組」の建物は高さではホテル館を上回り、何よりもましてその後明治三十年頃に解体されるまでその偉容を誇ったことは辺りの空間を変えた建築にふさわしい。三井組の存亡を賭けてやはり二代清水喜助によって設計され、五階建てで中央に塔屋を持つ建物は、洋風と城郭建築を合体させた形式で見るものに一種異様な雰囲気を与える建築物となった。その後この建物は三井小野組合銀行に譲られ、さらに第一国立銀行になった。そのため浮世絵の名称も変わっている。

三代広重をはじめとする多くの浮世絵師がこの建物を描いたことは既に前回記述したが、重要なことはこの建物が東京のあらゆる地点から見え、視界に飛び込んで来たときに、その自然な風景を乱すという点にある。いま他の東京の風景を主題とした作品を見て行くとかなり多くのものに背景として、異様な建物が取り込まれている。一例として三代広重「東京名所荒布橋ヨリ五橋一覧之真図」（明治

九年、大判三枚）を上げれば石橋の荒布橋を前景に、その橋を通る新旧の服装をした人々を配し、左奥に第一国立銀行、右手奥に富士を描いているが、銀行の方が富士より高い。その意味に於いて自然な風景のリズムを乱すということになるが、逆にいえば当時の人々が人口的な高さにある種の憧れを持っていたということにもなる。しかし小林清親「海運橋」に見られるように雪の降り積もった叙情的な景色はこの異様な建物すら絵画の中に同化させてしまっている。

明治七年清水喜助（二代）によって、同じく三井組の建物として駿河町の三井呉服店の跡に駿河町三井銀行を建てた。建物の外観を見る限り前述の建築物より、洋風の強い破綻のないものになっている。その意味では辺りに異様な雰囲気を与える要素は少ない。ただ問題は屋根の最上部に城郭建築に見られるしゃちが設施されている点である。つまりこの部分だけが意匠として突出している。「しゃち」が屋根に取り付けられた例は横浜の西洋建築にも見られるが（注2）、この場合はいささか意味が違っているようである。初田享によれば三井組はこのしゃちを非常に重要視していたとして、建物竣工の際に配り物として「不二にシャチホコ」の絵を用いていること、しゃちが城郭建築に用いられた社会的地位の象徴であったこと、さらにこの時期湯島の聖堂で開かれた博覧会に名古屋の金のしゃちが展示され多くの人の注目を集めたことも関係していると推定している（注3）。このことはたとえ建物がより西欧化されようとも精神的には江戸の権威づけをまだ引きずっていたことになる。またこの駿河町あたりは和風の家並の商店の立ち並ぶ場所で浮世絵の画題としても取り上げられ江戸時代後期、初代広重の「名所江戸百景　駿河町」に見られるように、正面奥に富士山を描いた構図で描かれる場合が多い。三代広重もかなり三井銀行を描いているが（リスト参照）、「古今東京名所　駿河町三井銀行夕景の富士」に見られるように伝統的なスタイルである富士と和風の日本家屋に西洋建築という新旧を対比させた意図的な作品もある。このことは当然周辺の空間のバランスが変化をきたしたことが前提になっている。しかし小林清親は「駿河町雪」で雪という道具を用いることによってそのアンバランスな面を見事に消しさって調和の取れた作品を作っている。

明治五年二月の大火により銀座から京橋、築地にいたる広大な面積が焼失した。築地ホテル館が焼けてしまったことは既に述べたが、この大火があの銀座煉瓦街建設の端緒になったのである。煉瓦街は東京の街の改造計画の第一歩であったと同時に急激な西欧化への危具も合わせ持っていたのである。この地域は皇居にも近く、また外国人の住む築地居留地もある。さらに開通したばかりの鉄道の駅、新橋もありいわゆる日本の表玄関として形態を整えておかねばならぬ地域であったし防火面からも配慮せねばならなかった。そこで政府は西欧の町並みにも匹敵するような形をこの銀座煉瓦街に託した。設計者はトーマス・ウォートルスで左右に煉瓦建築、京橋から新橋の間の街路は幅十五間で煉瓦を敷き詰め両側には松や桜などの街路樹を植えて歩道と車道を区別した。明治六年中には銀座一―四丁目、

尾張町一―二丁目などの表通りの全容が落成したが、入居者の少ない現状をみて当初の計画を大幅に減少し、木挽町以東はこの年に中止をしている。なお裏の中通り、横通りが完成したのは明治十一年である。従ってほかにこのような大規模の東京の街の改造計画はプランとしてはあったが、この現状からそれ以後は実施されていない。煉瓦街は住居として考えてみた場合、和式の生活をずっと続けてきた人々にとって非常に住みづらい部分が多かったことは想像に難くない。

こうした住む側の不人気とは別にこの煉瓦街を描いた浮世絵版画は発行部数が他に較べて圧倒的に多い。しかも絵としては人々も数多く往来し賑やかで繁栄を誇っている。この矛盾は浮世絵版画が体制の側にあったことを示している。権力の担い手としての版画については別に論じている（注4）から多くは述べないが、要するにこうあって欲しいという考え方に同調した誇張された作品ということになる。そのことは実際に竣工される前に想像画として板行されていることからもいえる。この煉瓦街はそこに住む住民によって多少住み易いように和風に手直しされて明治二十年代に入ると次第に繁栄し、東京の新しい名所になってゆくのである。その意味では明治政府の意図は曲がりなりにも成功したと言えるのかも知れない。しかし煉瓦街は異質な建物がその周辺の空間を変えるという規模のものではなく、面積としてそのもたらした意味は大きかった。つまり長さ一キロメートル以上に渡る忽然と現れた異質な空間は辺りに全く和風の建造物がなく、そこから眼を避けて見慣れた風景を探しても何一つ見つからなかった点にある。街路樹が松や桜であったにしても、そうした空間は住みにくいとかいう問題以上に慣れるまで時間が掛かったのであろう。「明治七、八年頃は香具師がこの煉瓦家屋を借り受けて興業物に用い、一種の興業街の有様を呈していた。銀座二丁目の熊の相撲、竹川町の踊り、銀座四丁目の貝細工、竹川町には幕末の名剣士榊原健吉の笑覧会などがあり、客を呼ぶしゃがれ声のみが宣しかったという。」（注5）とある。従って煉瓦街は居住区ではなくまるで江戸時代から続く見せ物興業の地、浅草奥山のようであったのかもしれない。してみればこの光景は辺りの西欧建築と併せて考えると奇妙な、あるいは皮肉な対比と言わざるを得ない。

銀座煉瓦街を描いた浮世絵版画の総数は百点近くなると考えられる。絵師としては三代広重がやはり一番多く三十点を越える。他に一曜斎国輝、昇斎一景、井上探景、小林清親、河鍋暁斎、芳虎などがいる。作品の表現方法は絵師としても一つの画面に全てを描くことは困難であったので、基本的には京橋側から遠近法を使用して新橋を遠景としてみる図様が多い。従って手前にある建物は詳細に描かれるが中景より遠景は殆ど分からず、また街路樹の桜並木も破綻を隠すのにうまく役立てている。むろん新橋側から描いた図もあるがはじめに銀座に移転してきた有名店が京橋側に多かったからである。また部分図でも京橋あたりの作品が多いのはそのことを証明し

ている。中でも松田牛肉店や玉寿司、銀座日報社などが前景として多く描かれている。

全図として制作された主な三代広重の作品「東京開化名京橋勝石造銀座通り両側煉化石商家盛栄之図」（明治七年　大判三枚）は京橋を手前に左側に牛肉店松田、日報社、の名称が書かれているが、左側にはまだ移転してきていないのか建物には名称はない。街路樹の桜が満開で馬車や人力車が行き交い、洋装の人物も配置されて、実際の光景以上の賑わいが強調されている。「東京名所京橋鉄道馬車往復煉瓦家ノ図」（明治十五年　大判三枚）この年開通し、新橋・日本橋間を走った鉄道馬車を主役にして京橋辺りの建物が描かれている。そこには洋風建築の京橋警察署、そして隅石を装飾として添えたモダンな日就社（読売新聞）の建物、その左には京橋勧工場の建物が見えている。勧工場はそれまでの座売り形式の店とは違い、商品を置いてそれを客が巡回して見るという現代の商店に通じる当時としては画期的な方法の商店であった。この鉄道馬車はやがて上野、浅草まで延長されて当時の市民の足として親しまれる共に東京の町の行き来を容易にし、ひいてはその空間を狭くさせることともなった。また鉄道馬車を主題としていままで浮世絵として登場しない町並みも描かれるようになり、構図として洋の鉄道馬車、和の周辺の風景という新旧を対照させた図様になっている。

銀座に比較的早く移転してきた会社や店では新聞社が多い。最も早い例は明治七年に日報社（東京日日新聞）が現在の銀座二丁目に越してきた。明治十年には日就社（読売新聞）が一丁目に、さらに朝野新聞が四丁目角（現在の三愛）に移転した。その後時代が下るに従って東京曙新聞、毎日新聞、絵入朝野新聞などが移転し、銀座はジャーナリズムの街の感があった。これらの新聞社のうち三代広重は「東京名所図会　日々新聞日報社」（明治十三年　大縦一）や「古今東京名所　尾張町日々新聞　日報社」（明治十六年　横中一）、「東京名所　銀座通朝野新聞社盛大之真図」（明治十三年　大判三枚）を残している。

そのほか個別の建築物を描いた例として「東京開化三十六景　尾張町嶋田店掛り」（半切横1）や「古今東京名所　尾張町恵比寿屋布袋屋」（明治十六年　大二丁掛）がある。

銀座煉瓦街の建設と同じ頃、公共の洋風建築もまた盛んに建造されていた。これらの建造物もまた塔屋あるいは時計台をもつものが多かった。明治七年、蛎殻町一丁目に建築された米商会所は中央の西洋風の建物の上に寺院建築風の屋根を持つ塔屋がつけられ、さらにその上にポールがあり風光計が設置された特徴ある形式が話題を呼び浮世絵としてかなり描かれている。三代広重は「東京名所図会　米市場」（明治八年　大縦一）や「東京名所　蛎から町米市場」などの作品を残している。

公官庁の建築物の殆どははじめ御雇い外国人の手になるものが多く、従って和洋折衷の独得の様式から離れた本格的建築様式を示すものであったが、逆に建築家自身の個性に左右されていてそれぞれ

の建物は様式的に統一されていない。ここではよく浮世絵に登場した話題性のあった建造物を見てみる。現在東京国立近代美術館工芸館あたりに建設された建物は竹橋陣営と呼ばれた近衛の兵営である。明治七年四月に竣工した。設計はウォートルスで赤煉瓦の特徴ある建物である。特に中央玄関部の上にペディメントがつけられその上の塔屋はドーム型で中央に時計が取り付けられている。この時計台は東京で最初のもので以後、公共建築はもちろんのこと、民間でもこの形式のタワーが多くみられるようになった。その意味で話題性があり、三代広重は「東京開化三十六景　竹橋内近営兵室」（明治七年頃、半切横一）などを描いている。

明治九年に竣工した常盤町にある紙幣寮ははじめウォートルスが設計し、途中でフランス人ボアンヴィルに代わった。この建物は後に大蔵省印刷局になるが、左右に張り出した煉瓦造りの建物中央上部には時計台が据つけらている。さらに三角形の塔の頂点には飾りとして鷲の彫刻が辺りをへいげいしているのは他に類例を見ない。このユニークな形式の建造物も話題となり多くの絵師が描いているが三代広重は「常盤橋内紙幣寮新建之図」（明治十年　大判三枚）や「古今東京名所　常盤橋ノ内印刷局」（明治十七年　半切横一）などを制作していいる。

参謀本部は、明治十二年、イタリア人カペレッチイの設計によって建てられた。彼は御雇い外国人として工部美術学校の建築の教師でもあった。永田町に建てられた瀟洒な三階建て煉瓦造りの建物は今までの豪壮な感じと違って辺りの景色にとけ込む暖かさを持っている。また位置的にも皇居近くにあり、その堀を前景として遠くに参謀本部が見える構図で多くの絵師が描いている。三代広重もまた「古今東京名所　外桜田陸軍参謀本部」（明治十六年　半切横一）などがある。明治七年に竣工した日本最初の郵便局の建物、駅逓寮は日本人建築家林忠恕の手になるものである。江戸橋近くの四日市に造られた建物は二階建て、正面にポーチと二階にバルコニーとペディメントを持っていてその優美さはしばしば江戸橋と近くの第一国立銀行と共に浮世絵に表現されている。特に画面の国立銀行と比較すればより本格的な洋風建築に近づいてきていることがよく分かる。三代広重は「東京名所　郵便局江戸橋図」（明治七年頃大縦一）や「東京府下名所尽　四日市駅逓寮」（明治六年　大縦一）などの作品を残している。この建物は明治二十一年火災で焼失した。

同じく明治七年神田万代橋近くに竣工した租税寮もまた二階建て、正面に車寄せ、ペディメントを持った瀟洒な建物で、周囲は和洋折衷の門柱と塀で囲まれている。浮世絵としては浅草に続く鉄道馬車などと一緒に描かれる場合が多い。三代広重も「古今東京名所　元筋違橋万代橋」（明治十六年　横中一）や「筋違万代橋租税寮之図」（明治八年　大判三枚）などを描いている。

こうした官庁の洋風建築は他にもかなりあり、それぞれがそれなりに評判となった。ここでは三代広重の作品によってその事を示すにとどめる。「東京諸官省名所集」（明治九年　大縦一）として

警視庁　第一国立銀行　開成学校　近衛兵寮　華族会館　博物館
東京府　騎兵所などを描いている。

注1　「都市の明治―路上からの建築史―」初田亨　一九八一
筑摩書房

注2　「横浜銅版画」神奈川県立博物館編　外国商館　エー・
ダブリュー・グレンニー商会　一九八四
有隣堂

注3　注1に同じ

注4　「版画の中の明治天皇」横田洋一　『版画研究　1』所収
一九九二
版画史学会

注5　「明治メディア考」加藤秀俊・前田　愛　一八八〇
中央公論社

洋風建築をつなぐ橋

ここに「東京名所一覧寿語六」（年代不詳　大六枚）という三代広重の作品がある。隅田川の桜を振り出しにして浅草の金龍山の門前で上がりとなる双六である。その順を見て行くと、永代橋、新橋鉄道、煉瓦石、京橋、日本橋、新富座、郵便局、海運橋第一国立銀行、米市場、江戸橋、駿河町三井、万代橋、上野東照宮、吉原、浅草橋となっている。つまり花見をしたあと東京の新名所である洋風建築を見学するため船で隅田川を下り永代橋を見て、新橋で降り陸路を散策している。銀座、日本橋辺りではあちこちと交錯するが、見て分かるとおり陸路をつなぐのは橋である。この橋の多さが東京がまだ水の都であった証明にもなるが、浮世絵にも多くの橋が描かれている。しかもその橋のほとんどは木から石に架け代えられたものである。

その始まりは明治六年十一月神田川に眼鏡形の石橋が架けられて万代橋と名付けられて評判となった。浮世絵としては付近に建設された租税寮と共に描かれる場合が多い。次に明治十年までに江戸橋、海運橋、浅草橋、蓬莱橋、高橋、鍛冶橋、常盤橋、荒布橋が石橋となり、新橋はかって芝口橋と呼ばれていたが、明治五年銀座煉瓦街建設のおりに鉄柱、鉄欄干を取り入れられたものに改築された。永代橋もまた明治七年には一部鉄を加えた橋に改築された。なお鉄橋として早くは横浜に明治二年ブラントンの設計による「吉田橋」があるが、東京では明治二一年の吾妻橋が最も早い例となる。

特に橋の素材の木から石へという質的な変化は今考える以上に、人々の興味を駆り立てたようである。それは木製の橋を毎日通り、洪水でもあれば簡単に流され壊れてしまう橋に慣れ親しんで来た人々にとって重たくて冷たい石の橋の出現は驚異であったのだろう。三代広重「荒布橋ヨリ五橋一覧之真図」（明治九年　大判三枚）はその意味では象徴的な作品である。構図は荒布橋から東京の代表的な五つの橋を見るというよりは、出来たての石の橋であるこの橋とアーチ形の橋げたを持つユニークな構造の江戸橋、周辺の異様な和洋折

衷の第一国立銀行、そしてより洋風に近づいた郵便局の建物などすべて新しい建造物が立ち並んだ風景に絵師の眼がいっている。まさにこの辺りは江戸時代のそれとは全く違った空間を創作した絶好の地点であったからだろう。だからこそ絵師はほかにもこの地点からの風景を盛んに制作するのである。そして前景ではその事を強調するかのように着物を着た男女を中央に配置し、その二人を押し退けるかのように左には洋服を着てシルクハットを被った紳士を乗せた人力車と右からは馬に乗った制服姿の巡査が駆けて来る。歩く着物の二人は伝統の象徴、人力車と馬に乗った巡査は洋風の象徴でしかもスピードという点も強調しているように見える。というふうに考えれてみれば、和はいずれ消え去る存在と絵師は捉えているのかも知れない。

繰り返される建築のための公園・広場

江戸時代からパフォーマンスが行われる広場はあった、それらはありとあらゆる見せ物興業が行われた浅草の奥山であり、両国橋のたもとの蔵前などであった。しかし明治期に入ると国家的行事としてのパフォーマンスを行う広場や公園が必要になってきた。また軍事演習のためにも広大な場所が必要であった。そうした地域として、上野公園、九段招魂社、皇居前の広場などが考えられるが取分け重要なのは上野公園である。上野公園は徳川の菩提寺寛永寺の境内であったが明治六年宮内省の管轄の公園となった。同じく徳川ゆかりの芝増上寺の境内もまた宮内庁の管轄の公園になったことは、歴史的に考えると持っている意味は深い。それらは大正期になって一般に解放され現在に至るが、おおやけの興業の地としての役割を果たしていた。その最も重要なものは内国勧業博覧会の開催であろう。明治政府は明治六年のウィーンの万国博覧会に参加して、殖産興業のため国内でもそうした形の博覧会を行う必要性を感じていた。明治十年第一回の「内国勧業博覧会」がこの上野公園で開催された。会期は八月二十一日から十一月三十日、出品者一万六千百七十二人、出品点数八万四千点余りという膨大な規模であった。一方大規模な博覧会開催のため公園がさらに拡張されたことに対して多くの批判もあった。「上野山内の公園なおも広大にせられんため、西黒門町三橋の近辺丸市という店を始めとして、池の端に建て連ねたる家は残らず取り払いになるということにて、昨今過半取崩しになりました。また山内なる清水の観音堂も早々取り払うように申し渡されしに、これまで通り建て置かれ下されたしと嘆願中のよし」と明治九年四月二十四日の曙新聞は伝えている。

この内国勧業博覧会に関して多くの絵師が作品を残している。三代広重は「東京名所上野公園地内国勧業博覧会美術館之図」（明治十年　大判三枚）や「上野公園地於不忍池内国勧業博覧会開場大花火図」（明治十年　大判三枚）などを制作している。同じく明治十四年には第二回内国勧業博覧会が開かれ、三代広重は「東京上野公園第二回内国勧業博覧会」（明治十四年　大判三枚）、「東京名所

上野公園内国勧業博覧会美術館並噴水器之図」など評判となった噴水などをテーマとした作品を描いた。この内国勧業博覧会はこれ以後も継続しているが、それ以外にもさまざまな物産会など行われ、さながら政府の興業の地ともいえる要素を持っている。さらに大事なことはこれらが一過性の事物であり、大規模興業によっては折角建てられた斬新な建造物が壊され、そこにまた新たな建築が建てられるという繰り返される空間という意味が込められていることである。

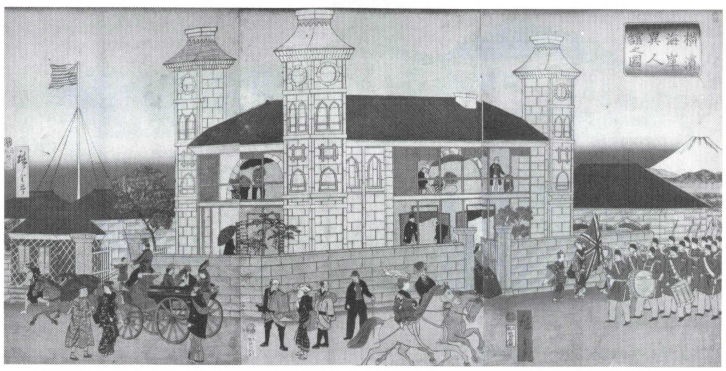
公園、広場は役割として国家的行事のとりおこなわれる地であり、そこには天皇、皇后の行幸があり、各国要人も参加した。さらに膨大な一般大衆もこの行事に繰り返し参加している。日本という国を世界に知らしめる。そして国民にも国家という形を認識させる点でこの地は重要な意味を持っていた。

終わりに

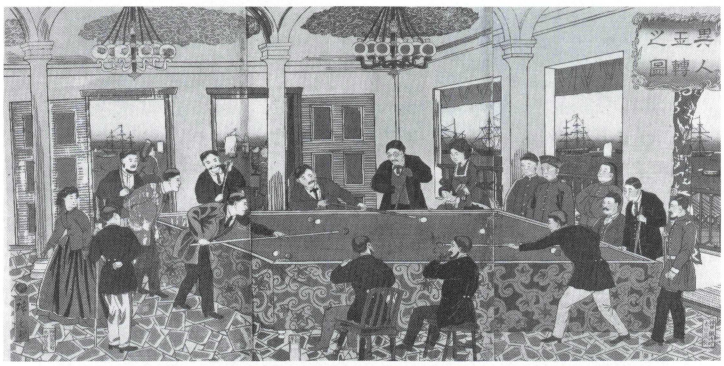
本文主目的は、明治期の近代化ひいては西欧化が東京の景色を変えたという点にある。それらは無意識の内に人々の考え方まで入り込んで来て江戸ではない明治という漠然とした認識を植え付けてしまった。それらは現在大量に刊行された文明開化絵の中に見ることが出来る。ここでは言いつくせなかった点がまだまだあるが、一つには「光り」があるであろう。江戸時代の燈明や蝋燭の明りとは違ったさらに明るい光の出現、瓦斯燈やアーク燈は暗闇を明るくしたに相違ない。それが人々の生活の時間帯を変えた。そのこと文明開化絵にも見ることが出来るが、他の版画、油絵などの作品にも共通した要素があるのでいずれ別にこの事を考えてみたい。

附記　三代広重の作品リストについて吉田漱氏の協力を得たことを記して感謝いたします。

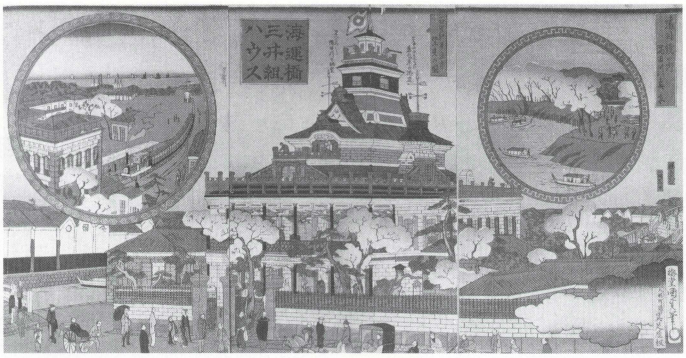
三代広重
蒸気車出発時刻賃金附
　明治５年（1872）10月



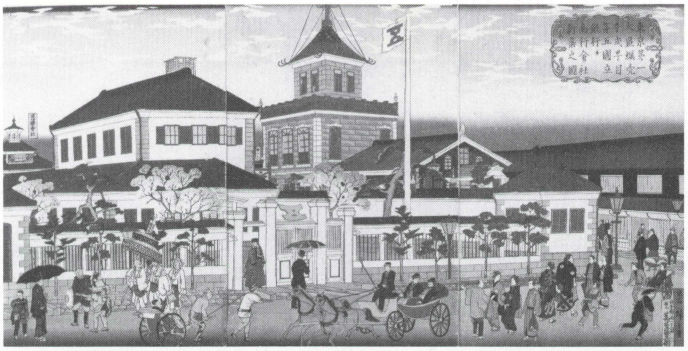
三代広重
横浜海岸異人館之図
　明治３年（1870）４月



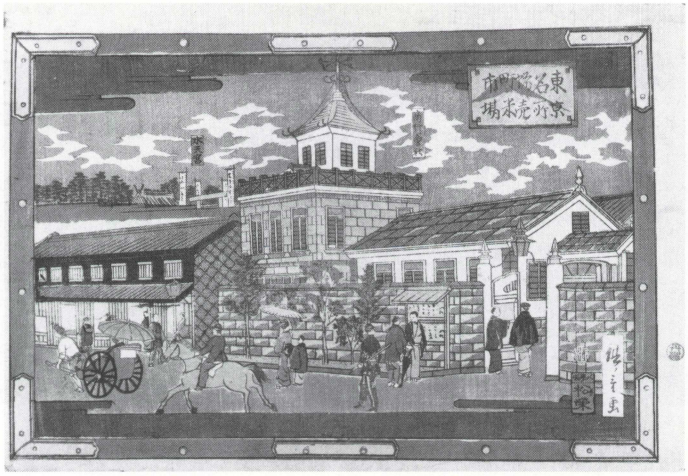
三代広重
異人玉転之図



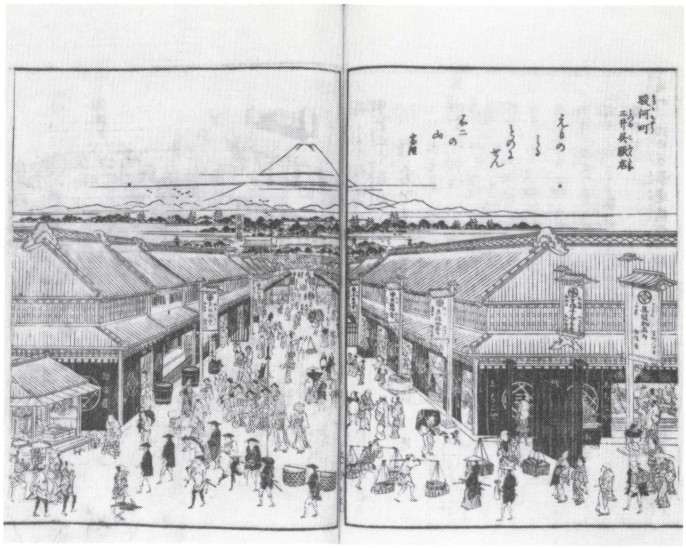
梅堂国政
海運橋三井組ハウス
　明治５、６年



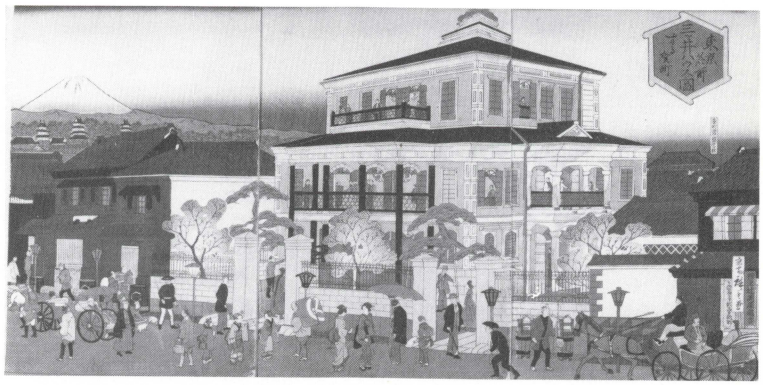
三代広重
東京第一大区　蠣殻町二丁目
第五国立銀行并びに商行会社
新築之図
　明治８、９年



三代広重
東京名所蠣殻町米市場
　明治６、７年頃



江戸名所図会
駿河町三井呉服店



東京名所三井ハウス図　するが町
明治10年頃

久松劇場　久松座繁栄図
明治12年

三代広重作品リスト（未定稿）

番号	作　　品	年代	板 元	形式	番号	作　　品	年代	板 元	形式
1	東京名勝図会 呉服橋御門	1868	平新	大縦1	35	東京名勝図会 亀井戸天神		平新	大縦1
2	東京名勝図会 海運橋通坂本町	1868	平新	大縦1	36	東京名勝図会 道灌山	1869	丸鉄	大縦1
3	東京名勝図会 日本橋御高札	1868	平新	大縦1	37	東京名勝図会 九段坂牛ケ淵	1870		大縦1
4	東京名勝図会 鉄砲州明石ばし	1868	平新	大縦1	38	東京名勝図会 築地異人館	1873	丸鉄	大縦1
5	東京名勝図会 高輪英吉利館	1868	平新	大縦1	39	東京名勝図会 よろいはしの雪降	1873	丸鉄	大縦1
6	東京名勝図会 お茶水朝霧	1868	丸鉄	大縦1	40	東京名勝図会 汐留鉄道館	1873	丸鉄	大縦1
7	東京名勝図会 ホテル館庭上の図	1868	平新	大縦1	41	東京名勝図会 品川八ッ山下鉄道	1873	丸鉄	大縦1
8	東京名勝図会 築地ホテル館の図		平新	大縦1	42	東京名勝図会 上野東照宮	1874		大縦1
9	東京名勝図会 神田明神境内	1868	平新	大縦1	43	東京名勝図会 五勢楼金瓶楼	1874	丸鉄	大縦1
10	東京名勝図会 高輪大木戸	1868	平新	大縦1	44	東京名勝図会 尾張町日々新聞日報社	1880	津田源七	大縦1
11	東京名勝図会 上野広小路	1868	平新	大縦1	45	東京名勝図会 駿河町三ッ井銀行	1880		大縦1
12	東京名勝図会 真乳山	1869	平新	大縦1	46	東京名勝図会 海運橋為換座	1873	丸鉄	大縦1
13	東京名勝図会 品川沖の黒ふね	1869	丸鉄	大縦1	47	東京名勝図会 するが町三ッ井のハウス		丸鉄	大縦1
14	東京名勝図会 さくらだうち	1869	平新	大縦1	48	東京名勝図会 浅草橋従柳ばし		丸鉄	大縦1
15	東京名勝図会 隅田堤の夕景	1869	平新	大縦1	49	東京名勝図会 芝増上寺大門	1873?	丸鉄	大縦1
16	東京名勝図会 向島之花盛	1869	平新	大縦1	50	東京名勝図会 金杉橋より芝浦の鉄道	1874?	丸鉄	大縦1
17	東京名勝図会 三囲の之景	1869	丸鉄	大縦1	51	東京名勝図会 常磐橋紙幣寮		小林	大縦1
18	東京名勝図会 永代ばし	1869	平新（平のや）	大縦1	52	東京名勝図会 日本橋の眞景		小林	大縦1
19	東京名勝図会 三十三間堂通矢の図	1869	丸鉄	大縦1	53	東京名所図会 幸橋御門うち	1868	平新	大縦1
20	東京名勝図会 堀切里花せうぶ	1869	丸鉄	大縦1	54	東京名所図会 鈴が森	1868	平新	大縦1
21	東京名勝図会 愛宕山見晴の図	1869	丸鉄	大縦1	55	東京名所図会 上野山内雨中の景	1868	平新	大縦1
22	東京名勝図会 筋違御門	1868	平新	大縦1	56	東京名所図会 金龍山歳の市	1869		大縦1
23	東京名勝図会 数寄屋ばし御門	1869	丸鉄	大縦1	58	東京名所図会 隅田堤の夕景	1869	丸鉄	大縦1
24	東京名勝図会 橋場わたし雪の景	1869	丸鉄	大縦1	58	東京名所図会 不忍岡	1869		大縦1
25	東京名勝図会 州崎の汐干	1869	丸鉄	大縦1	59	東京名所図会 芝神明大鳥居			大縦1
26	東京名勝図会 日暮の里	1869	丸鉄	大縦1	60	東京名所図会 九段坂上靖国神社			大縦1
27	東京名勝図会 飛鳥山花見	1869	丸鉄	大縦1	61	東京名所図会 品川鉄道の景旧八ッ山下	1872	山清	大縦1
28	東京名勝図会 猿若まち	1869	平新	大縦1	62	東京名所図会 江戸橋郵便局	1872	山清	大縦1
29	東京名勝図会 本所回向院	1869	平新（平のや）	大縦1	63	東京名所図会 銀座通煉化石	1874	山清	大縦1
30	東京名勝図会 大川端中州秋景	1869	平新	大縦1	64	東京名所図会 八ッ山下の鉄道	1874		半切横1？
31	東京名勝図会 両ごくの大花火	1869	平新	大縦1	65	東京名所図会 蓬莱橋	1874?		
32	東京名勝図会 外桜田弁慶堀	1869	丸鉄	大縦1	66	東京名所図会 米市場	1875		
33	東京名勝図会 霞ケ関	1869	丸鉄	大縦1	67	東京名所図会 江戸橋郵便局	1876		
34	東京名勝図会 王子滝野川	1869	丸鉄	大縦1	68	東京名所図会 銀座煉瓦石竹がし			

番号	作　　品	年代	板 元	形式	番号	作　　品	年代	板 元	形式
69	東京名所図会 浅草橋				103	東京三十六景 本江通り	1870	大平	大縦1
70	東京名所図会 京橋従煉化石				104	東京三十六景 築地ホテル館	1870	大平	大縦1
71	東京名所図会 高輪海岸の鉄道				105	東京名勝尽 築地ホテル館海岸之景	1870		4切
72	東京名所図会 品川海岸の鉄道		藤慶		106	東京名勝尽 高輪の応接所	1870		4切
73	東京名所図会 海運橋第一国立銀行	1878	浅野栄蔵		107	東京名勝尽 蛎殻町商行社			4切
74	東京名所図会 新富座開業式花斯燈	1878	浅野栄蔵		108	東京名勝尽 柳橋のわたし雨中景			4切
75	東京名所図会 新橋駅蒸気車	1878	浅野栄蔵	大縦1	109	東京名勝尽 首尾の松より両国の景			4切
76	東京名所図会 永代ばしつくだしま	1878	浅野栄蔵	大縦1	110	東京名勝尽 すずが森海岸			4切
77	東京名所図絵 萬代橋	1878	浅野栄蔵	大縦1	111	東京名勝尽 堀切の里花菖蒲			4切
78	東京名所図会 日々新聞日報社	1880		大縦1	112	東京名勝尽 よし原仲の町	1870		4切
79	東京名所図会 駿河町三ツ井銀行	1880		大縦1	113	東京名勝尽 元柳橋改め難波橋			4切
80	東京名所図会 新富座花瓦斯		樋口銀太郎	大縦1	114	東京名勝尽 浅草金竜山			4切
81	東京名所図会 ときわ橋紙幣局		樋口銀太郎	大縦1	115	東京名勝尽 鉄砲州あかし橋			4切
82	東京名所図会 銀座通り煉瓦造	1879	岡本徳	大縦1	116	東京名勝尽 佃しま見当の燈篭			4切
83	東京名所図会 日本橋傳信局の図	1879	岡本徳	大縦1	117	東京横浜名所一覧図会 六郷わたし	1871	森本	大縦1
84	東京名所図会 駿河町三井銀行	1879	岡本徳	大縦1	118	東京横浜名所一覧図会 生麦風景	1871?	森本	大縦1
85	東京名所図会 新橋ステンション蒸気車	1883		大縦1	119	東京横浜名所一覧図会 神奈川台見はらし	1872	森本	大縦1
86	東京名所図会 亀戸天満宮	1885	秋山武衛門	大縦1	120	東京横浜名所一覧図会 神奈川入川の鉄道	1872	森本	大縦1
87	東京名所図会 芝紅葉館	1885	秋山武衛門	大縦1	121	東京横浜名所一覧図会 鶴見川の景	1872	森本	大縦1
88	東京名所図会 上野公園東照宮	1883	長谷川常次郎	大縦1	122	東京横浜名所一覧図会 鈴ケ森雪中	1872	森本	大縦1
89	東京名所図会 上野山下鉄道馬車	1883	長谷川常次郎	大縦1	123	東京横浜名所一覧図会 東京新橋鉄道		森本	大縦1
90	東京名所図会 不忍池塘大競馬	1885	秋山武衛門	大縦1	124	東京横浜名所一覧図会 横浜道ひらぬま新地		森本	大縦1
91	東京名所図会 真乳山	1885	秋山武衛門	大縦1	125	東京横浜名所一覧図会 横浜裁判所		森本	大縦1
92	東京名所図会 新橋通煉瓦造		熊谷庄七	大縦1	126	東京横浜名所一覧図会 高輪蒸気車鉄道	1872	森本	大縦1
93	東京名所図会 高輪の海岸		イセキ	大横1	127	東京名勝清涼 州崎汐干狩り	1872		大縦1
94	東京名所図会 八ツ山下の鉄道		イセキ	大横1	128	東京名勝清涼 御堀端日比谷の景	1872		大縦1
95	東京名所図会 六郷鉄道		イセキ	大横1	129	東京名勝清涼 隅田川	1872		大縦1
96	東京名所図会 横浜往辺蒸気車		イセキ	大横1	130	東京名勝清涼 招魂社高燈籠	1872		大縦1
97	東京名勝年中行事 日本橋	1869	いせ喜	大縦1	131	東京明細図会 高輪海岸鉄道の図	1873	丸鉄	半切横1
98	東京名勝年中行事 霞ケ関	1869	いせ喜	大縦1	132	東京明細図会 汐留蓬莱橋	1874	丸鉄	半切横1
99	東京名勝年中行事 築地ホテル館	1869	いせ喜	大縦1	133	東京明細図会 品川鉄道	1873	丸鉄	半切横1
100	東京名勝年中行事 桜田外	1869	いせ喜	大縦1	134	東京明細図会 汐留ステーション	1873	丸鉄	半切横1
101	東京三十六景 日本橋御高札	1870	大平	大縦1	135	東京明細図会 芝金杉橋河原崎座	1873	丸鉄	半切横1
102	東京三十六景 深川越中じま	1870	大平	大縦1	136	東京明細図会 芝愛宕神社			

番号	作品	年代	板元	形式	番号	作品	年代	板元	形式
137	東京明細図会 築地海軍省	1874?	丸鉄	中判横1	171	東京開化三十六景 州崎のしほひ			半切横1
138	東京明細図会 待乳山聖天宮		丸鉄	中判横1	172	東京開化三十六景 飛鳥山かわらなげ	1877?		半切横1
139	東京明細図会 江戸橋真景		丸鉄	中判横1	173	東京開化三十六景 竹橋内近衛兵室			半切横1
140	東京明細図会 芝金杉橋		丸鉄	中判横1	174	東京開化三十六景 築地海軍省	1874	萬屋孫兵衛	中判横1
141	東京明細図会 トウカマチ米会所		丸鉄	中判横1	175	東京開化三十六景 蛎殻町商行会社	1874	萬屋孫兵衛	中判横1
142	東京明細図会 新橋鉄橋 芝金杉橋 河原崎座			中判縦1	176	東京開化三十六景 新富町守田座	1874	萬屋孫兵衛	中判横1
143	東京明細図会 虎ノ門工学寮			中判縦1	177	東京開化三十六景 新吉原仲の町花盛	1874	萬屋孫兵衛	中判横1
144	東京真景図会 高輪の海岸通	1872	森本	大縦1	178	東京開化三十六景 京橋銀座	1874	萬屋孫兵衛	中判横1
145	東京真景図会 両国はしの花火	1873	大橋	大縦1	179	東京開化三十六景 浅草橋より柳橋景	1874	萬屋孫兵衛	中判横1
146	東京真景図会 荒布橋より江戸橋	1874		大縦1	180	東京開化三十六景 海運橋國立銀行	1874	萬屋孫兵衛	中判横1
147	東京真景図会 あらめばしより江戸橋	1875	大橋	大縦1	181	東京開化三十六景 土子海老屋扇屋		萬屋孫兵衛	中判横1
148	東京真景図会 新橋汐留ステンション	1875	大橋	大縦1	182	東京開化三十六景 日本橋神輿渡シ	1873	萬屋孫兵衛	中判横1
149	東京真景図会 八ツ山下の鉄道	1875	森本	大縦1	183	東京開化三十六景 柳橋妙見		萬屋孫兵衛	中判横1
150	東京真景図会 向島土手の燈籠	1875	森本	大縦1	183	東京開化三十六景 駿河富士町		萬屋孫兵衛	中判横1
151	東京真景図会 萬代橋租税寮			大縦1	185	東京開化三十六景 浅草寺の雪景		萬屋孫兵衛	中判横1
152	東京真景図会 銀座煉化石			大縦1	186	東京開化三十六景 芝あたご山の雪		萬屋孫兵衛	中判横1
153	東京真景図会 日本橋より江戸橋	1875	大橋	大縦1	187	東京開化三十六景 芝増上寺内円山の景		萬屋孫兵衛	中判横1
154	東京真景図会 浅草橋神田川		森本順三郎	大縦1	188	東京名所 蛎から町米市場	1874	松栄	
155	東京府下名所尽 深川州崎汐干狩	1873	熊谷？	大縦1	189	東京名所 郵便局江戸橋図			
156	東京府下名所盡 萬代橋租税寮		辻岡屋文助	大縦1	190	東京名所 鉄砲州明石橋之景			大横1
157	東京府下名所盡 永代橋 大川端	1874	辻岡屋文助	大縦1	191	東京名所 両国大花火			大横1
158	東京府下名所尽 海運橋第一国立銀行			大縦1	192	東京名所 赤坂皇居之図			
159	東京府下名所尽 京橋従煉瓦石之図				193	東京名所 大伝馬町木綿店			
160	東京府下名所尽 新橋ステンション				194	東京名所 日本はし江戸橋	1879		
161	東京府下名所尽 江戸橋より鎧橋の景	1875			195	東京名所 高なわ海岸の鉄道	1879	津田源七	
162	東京府下名所尽 四日市駅遞寮	1873			196	東京名所 芝浦鹿島神社景		植木林之助	
163	東京開化三十六景 江戸橋駅遞寮図 海運橋国立銀行	1874	大倉孫兵衛	大2丁掛	197	東京名所 新橋ステーション蒸汽車図	1876	浅野栄蔵	大縦1
164	東京開化三十六景 新ばし鉄道館	1874		半切横1	198	東京名所 上野東照宮			
165	東京開化三十六景 しん橋より蓬莱社			半切横1	199	東京名所 別品揃 墨水堤			
166	東京開化三十六景 目黒不動の滝			半切横1	200	東京名所 柳はし			
167	東京開化三十六景 尾帳町嶋田店掛り			半切横1	201	東京名所 上野公園の景		長谷川	大縦1
168	東京開化三十六景 赤坂離宮紀の国坂		大倉孫兵衛	半切横1	202	東京名所 ツキチホテル館			中縦1
169	東京開化三十六景 品川沖			半切横1	203	東京名所 ホテル館中門の図			中縦1
170	東京開化三十六景 八ツ山下鉄道之夜景			半切横1	204	東京名所 綾瀬川 鐘ケ渕			中縦1

番号	作品	年代	板元	形式
205	東京名所 浅草金龍山			中縦1
206	東京諸官省名所集 警視庁 第一国立銀行 開成学校	1876		大縦1
207	東京諸官省名所集 近衛兵寮 華族会館 博物館	1876		大縦1
208	東京諸官省名所集 東京府 騎兵所	1876		大縦1
209	東京諸官省名所集 宝田町太政官代 森本町駅逓寮祝田町五番地元老院	1876	林吉蔵	大縦1
210	東京諸官省名所集 幸橋内東京府 八代洲町一丁目騎兵隊 宝田町六番地元老院内議事院	1876	林吉蔵	大縦1
211	東京諸官省名所集 築地海軍省 霞ケ関一丁目外務省 八代洲町東京裁判所	1876	林吉蔵	大縦1
212	東京諸官省名所集 大手町一丁目紙幣寮 萬代橋 租税寮 有楽町一丁目陸軍省	1876	林吉蔵	大縦1
213	東京諸官省名所集 内務省 大蔵省 工学寮 鉄道寮	1876	林吉蔵	大縦1
214	東京諸官省名所集 芝御浜延遼館 文部省 教部省 大手町二丁目 司法省八代洲町二丁目		林吉蔵	大縦1
215	東京開華名所図会之内 金龍山浅草寺四万六千日群衆			大縦1
216	東京開華名所図会之内 深川州崎汐干狩			大縦1
217	東京開華名所図会之内 海運橋第一国立銀行			大縦1
218	東京開華名所図会之内 筋違萬世橋より駿河台を望む		熊谷庄七	大縦1
219	東京開華名所図会之内 駿河町三ツ越両店		熊谷庄七	大縦1
220	東京開華名所図会之内 蛎殻町商行会社米市場員	1879		大縦1
221	東京開華名所図会之内 新橋通煉瓦造	1879		大縦1
222	東京開華名所図会之内 四日市郵便驛遞寮		熊谷庄七	大縦1
223	東京開華名所図会之内 新橋鉄道寮			大縦1
224	東京開華名所図会 築地海軍省		熊谷庄七	大縦1
225	東京開華名所図会之内 八代洲町警視庁出初図	1879		大縦1
226	東京開華名勝図会 亀井戸梅屋敷庭中		熊谷庄七	大縦1
227	東京写真八景 京ばし銀座通			4切
228	東京開華名所図会之内 芝阿たご山		熊谷庄七	大縦1
229	東京開華名勝図会 上野山内東照宮	1874		大縦1
230	東京開華名所図会之内 新橋ステーション蒸汽車発車の図	1879	樋口銀次郎	大縦1
231	東京開華名勝図会 両国橋の花火		熊谷庄七	大縦1
232	東京開華名所図会之内 新富座戯場図		熊谷庄七	大縦1
233	東京開華名勝図会 駿河町三井銀行		熊谷庄七	大縦1
234	東京開華名所図会之内 九段坂堂夜燈	1882	船津	大縦1
235	東京第弐名所 銀座通煉瓦石之図			大縦1
236	東京開華名勝図会 永代橋佃島		熊谷庄七	大縦1
237	東京写真八景 日本橋	1878	松村甚兵衛	4切
238	東京開華名所図絵之内 警視庁出初の図		熊野庄七	大縦1
239	東京開華名所図絵之内 隅田堤花盛の群衆		熊野庄七	大縦1
240	東京写真八景 第一国立銀行	1878	松村甚兵衛	4切
241	東京写真八景 する賀町三ツ井銀行	1878		4切
242	東京写真八景 両国ばし大川			4切
243	東京写真八景 新はしのステンション			4切
244	府県名所図会 東京浅草金龍山	1880	水野慶次郎	半切横1
245	府県名所図会 神奈川県横浜いせやま	1880	水野慶次郎	半切横1
246	府県名所図会 茨城県常陸霞浦	1880	水野慶次郎	半切横1
247	府県名所図会 静岡県清見渡	1880	水野慶次郎	半切横1
248	府県名所図会 秋田羽後野代港	1883	水野慶次郎	半切横1
249	府県名所図会 岐阜県飛騨の籠わたし	1880	水野慶次郎	半切横1
250	府県名所図会 長野県信濃上田の学校	1880	水野慶次郎	半切横1
251	府県名所図会 新潟越後米山之図	1880	水野慶次郎	半切横1
252	府県名所図会 栃木県下野日光本社	1880	水野慶次郎	半切横1
253	府県名所図会 山形県羽前最上川	1880	水野慶次郎	半切横1
254	府県名所図会 滋賀県近江三井寺の観音	1880	水野慶次郎	半切横1
255	府県名所図会 愛知県尾帳青開山	1880	水野慶次郎	半切横1
256	府県名所図会 兵庫県神戸布引瀧	1880	水野慶次郎	半切横1
257	府県名所図会 高知県土佐幡多郡龍串	1880	水野慶次郎	半切横1
258	府県名所図会 山口県周防錦帯橋	1880	水野慶次郎	半切横1
259	府県名所図会 京都西京金閣寺	1880	水野慶次郎	半切横1
260	府県名所図会 大阪高麗橋	1880	水野慶次郎	半切横1
261	府県名所図会 堺県大和奈良	1880	水野慶次郎	半切横1
262	府県名所図会 山梨県甲斐之猿橋	1880	水野慶次郎	半切横1
263	府県名所図会 岡山県備前戸渡	1880	水野慶次郎	半切横1
264	府県名所図会 広島県安芸厳島景	1880	水野慶次郎	半切横1

番号	作品	年代	板元	形式
265	府県名所図会 和歌山県伊勢和歌浦	1880	水野慶次郎	半切横1
266	府県名所図会 三重県伊勢同宮本社	1880	水野慶次郎	半切横1
267	府県名所図会 北海道函館支庁	1880	水野慶次郎	半切横1
268	府県名所図会 長崎県肥前大浦	1880	水野慶次郎	半切横1
269	府県名所図会 島根県岩見高津山	1880	水野慶次郎	半切横1
270	府県名所図会 徳島県阿波鳴門	1880	水野慶次郎	半切横1
271	府県名所図会 福島県岩猪苗代湖	1880	水野慶次郎	半切横1
272	府県名所図会 群馬県上野富岡製糸場	1880	水野慶次郎	半切横1
273	府縣名所図会 豊後佐賀関		水野房治郎	半切横1
274	府縣名所図会 横浜いせ山の景		水野房治郎	半切横1
275	東京名所尽 京はしれんがの図			4切
276	東京名所尽 するが町三井組 隅田堤の花盛 高輪海岸鉄道 華族銀行よりステーションの図	1881	綱島亀吉	大縦1 4丁掛
277	東京名所尽 上野公園清水堂 両国大川橋 九段上靖国神社 第一国立銀行	1881	綱島亀吉	大縦1 4丁掛
278	東京名所尽 萬世橋図	1881?		4切
279	東京名所尽 しん橋より蓬莱橋之図	1881?		4切
280	古今東京名所 駿河町三井銀行夕景の富士	1883	辻岡文助	半切横1
281	古今東京名所 尾張町恵比寿屋布袋屋	1883	辻岡	大2丁掛
282	古今東京名所 元筋違万代橋	1883		半切横1
283	古今東京名所 尾張町日々新聞日報社	1883	辻岡	半切横1
284	古今東京名所 外桜田陸軍参謀本部	1883		半切横1
285	古今東京名所 飛鳥山公園王子製紙会社			半切横1
286	古今東京名所 筋違い八ツ小路昌平橋			半切横1
287	古今東京名所 飛鳥山かわらなげ			半切横1
288	古今東京名所 不忍池弁天ノ秋	1883	辻岡文助	半切横1
289	古今東京名所 常盤橋ノ内印刷局	1884		半切横1
290	古今東京名所 日本橋	1883	辻岡文助	半切横1
291	古今東京名所 上野鉄道蒸汽車	1884	辻岡文助	半切横1
292	古今東京名所 高縄	1883	辻岡文助	半切横1
293	古今東京名所 九段坂見はらし高燈籠	1883	辻岡文助	半切横1
294	古今東京名所 紀ノ国坂	1883	辻岡文助	半切横1
295	古今東京名所 赤坂仮皇居	1883	辻岡文助	半切横1
296	古今東京名所 よろひのわたし	1883	辻岡文助	半切横1
297	古今東京名所 よろひはし	1883	辻岡文助	半切横1
298	古今東京名所 府下第一の劇場新富座		辻岡文助	半切横1
299	古今東京名所 江戸橋土手蔵三ツ菱の荷蔵	1883		半切横1
300	東京名所之内 六郷の鉄道館		萬屋孫兵衛	大縦1
301	東京名所之内 上野公園清水堂			大縦1
302	東京名所之内 築地の異人館			半切横1
303	東京名所之内 第一の劇場 新富座		堤吉兵衛	
304	東京名所之内 両国橋大花火	1875	丸鉄	大縦1
305	東京名所之内 新橋ステンション	1879	辻岡文助	大横1
306	東京名所之内 六郷の鉄道館		萬屋孫兵衛	大横1
307	東京名所之内 京はし以南の煉瓦造		堤吉兵衛	大横1
308	東京名所之内 浅草金竜山		堤吉兵衛	大横1
309	東京名所之内 第一の劇場 新富座		堤吉兵衛	大横1
310	東京名所之内 江戸橋三菱蔵郵便局		堤吉兵衛	大横1
311	東京名所之内 常盤ばし内郵便局		堤吉兵衛	大横1
312	東京開華名勝 新橋ステンション蒸気発車の図		樋口銀太郎	大縦1
313	東京開華名勝 上野山内東照宮			大縦1
314	東京土産名勝図会 永代橋日本銀行	1884	水野幸	大縦1
315	東京土産名勝図会 浅草観世音	1884		大縦1
316	東京開化名所 新ばしステーンション		蔦吉	大縦1 30枚揃の内?
317	東京名所写真十二景 吾妻橋より向嶋の景	1890		大縦1
318	東京開化名所 京橋通り煉化石		蔦吉	
319	東京名所写真十二景 汐留蒸気車ステンション		福田熊次郎	大縦1
320	東京開化名所 汐留蓬莱橋		蔦吉	
321	東京開化名所 日本橋より一石橋		蔦吉	
322	東京開化名所 よろひばし			小判縦1
323	東京開化名所 為替会社			小判縦1
324	東京開化名所 京橋石造之図			大縦3
325	報知新聞 奥羽御巡幸図会 福島県下	1876	熊谷庄七	大縦1
326	報知新聞 奥羽御巡幸図会 松島口出帆之図	1876	熊谷庄七	大縦1
327	報知新聞 奥羽御巡幸図会 函館港烟火天覧図	1876	熊谷庄七	大縦1
328	報知新聞 奥羽御巡幸図会 函館港開拓使庁門飾ノ図	1876	熊谷庄七	大縦1

番号	作　　品	年代	板 元	形式	番号	作　　品	年代	板 元	形式
329	東京名所年中行事 十一月 神田明神	1880		12枚揃	363	東京開化三十六景 第一国立銀行		新井	大縦1
330	版下古今名所図会 東京日本橋	1879			364	東京滑稽名所 隅田堤の満花	1883	伊勢鉄	大縦1
331	版下古今名所図会 東京駿河町三井銀行	1879			365	東京滑稽名所 上野公園婦人の酒乱		伊勢鉄	大縦1
332	版下古今名所図会 常盤橋紙幣局	1879			366	東京の花 纏つくし 放駒長吉 左団次			大縦1
333	版下古今名所図会 東京よろひばし	1879			367	東京の花 纏つくし名勝会 米屋町商行会社			大縦1
334	版下古今名所図会 金杉橋瓦斯局	1879			368	東京の花 纏つくし名勝会 水戸綱條 中村翫雀			大縦1
335	版下古今名所図会 浅草橋雪の景	1879			369	東京の花 纏つくし名勝会 金杉橋新堀の芝居			大縦1
336	版下古今名所図会 東京浅草金竜山	1879			370	小学教育大日本名所図会 滝ノ浦眞景 能登国	1891	児玉又七	中横1
337	版下古今名所図会 九段坂の燈台	1879			371	小学教育大日本名所図会 神通川舟橋	1891	児玉又七	中横1
338	諸国名所図会之内 西京東山一覧	1880	小林鉄次郎	大縦3	372	小学教育大日本名所図会 宮古浦図 陸中国	1891	児玉又七	中横1
339	諸国名所図会之内 甲斐猿橋遠望	1880	小林鉄次郎	大縦3	373	小学教育大日本名所図会 高津山夕浜 石見国	1891	児玉又七	中横1
340	大日本神社仏閣 紀州高野山金堂	1880		中判横1	374	小学教育大日本名所図会 焚火山焚火ノ社 隠岐国	1891	児玉又七	中横1
341	大日本神社仏閣 野州日光山神社	1880		中判横1	375	小学教育大日本名所図会 上野長田川	1891	児玉又七	中横1
342	大日本神社仏閣 遠州秋葉山坂道			中判横1	376	小学教育大日本名所図会 大坂高麗橋	1891	児玉又七	中横1
343	大日本神社仏閣 讃岐象頭山之遠望			中判横1	377	小学教育大日本名所図会 西京四条鐵橋	1891	児玉又七	中横1
344	大日本神社仏閣 西京音羽山清水寺			中判横1	378	小学教育大日本名所図会 新潟港之図	1891	児玉又七	中横1
345	大日本神社仏閣 伊勢国内宮本社			中判横1	379	小学教育大日本名所図会 長崎港	1891	児玉又七	中横1
346	大日本神社仏閣 大阪府天王寺西門			中判横1	380	フランス之名医足病療治	1866	丸屋平次郎	大縦1
347	大日本神社仏閣 大阪府天満天神社			中判横1	381	横浜商館之図	1867	伊勢屋喜三郎	大3
348	大日本神社仏閣 信濃国善光寺			中判横1	382	横浜海岸異人館之図	1870	政田屋	大3
349	東京名所旧跡尽 浅草鏡ケ池石の枕の由来	1881	大島真治郎	中横1 2丁掛	383	横浜各国商館繁栄	1870	万屋孫兵衛	大3
350	東京名所旧跡尽 浅草金竜山三社権現の由来	1881	大島真治郎	中横1 2丁掛	384	横浜吉田橋ヨリ伊勢山太神宮遠景	1870	若狭屋甚五郎	大3
351	大日本名所之内 駿河三保之松原	1884?		大縦2	385	武陽横浜浅間山ヨリ異人館市中之一覧	1870	伊勢屋喜三郎	大3
352	大日本名所之内 箱根山上之湖水	1884?		大縦2	386	横浜海岸通之図	1870	伊勢屋喜三郎	大3
353	東京名所十二景 隅田川夜雨		丸甚	4切横1	387	横浜商館天主堂ノ図	1870	増田屋	大3
354	東京名所十二景 不忍暮雪		丸甚	4切横1	388	流行車尽し廻り嫂六	1870	政田屋	大3
355	東京名所十二景 御殿山満開		丸甚	4切横1	389	横浜往返寿古録	1870	大黒屋金之助	大3
356	東京名所十二景 海案寺紅葉		丸甚	4切横1	390	横浜吉田橋ヨリ馬車道之図	1870?	辻岡屋文助	大3
357	東京開化三十六景 新橋より見たる蓬莱舎		新井？	大縦1	391	横浜商館繁栄之図	1871	藤岡屋慶次郎	大3
358	東京滑稽名所 築地異人館		上村清左衛門	大縦1	392	横浜亜三番商館繁栄之図	1871	政田屋	大3
359	東京開化三十六景 三井はうす			大縦1	393	横浜海岸各国商館図	1871	万屋孫兵衛	大3
360	東京滑稽名所 向島堤の図		上村清左衛門	大縦1	394	横浜各国商館之図	1871	辻岡屋亀吉	大3
361	東京開化三十六景 四日市郵政本局			大縦1	395	横浜商館繁栄之図	1871	上州屋金蔵	大3
362	東京滑稽名所 亀戸天満宮 反り橋		伊勢鉄	大縦1	396	横浜本町イタリヤ役館之図	1871?	柾木正三郎？	大3

番号	作品	年代	板元	形式
397	横浜海岸フランス役館之景	1871	増田屋銀次郎	大3
398	横浜吉田橋ヨリ馬車道之真景	1871	政田屋	大3
399	横浜海上蒸気車鉄道之図	1871	政田屋	大3
400	東京府下自慢競 品川之鉄道図	1874		大縦1
401	神奈川入河景蒸気車鉄道図	1871	伊勢屋喜三郎	大3
402	東京府下名所自慢競 新橋従蓬莱橋ステーション	1874	伊勢兼	大縦1
403	横浜往返蒸気車全図	1872	上州屋金蔵	大3
404	東京名所図会 山下の鉄道		いせき	大縦1
405	横浜新地蒸気車鉄道之真景	1872	若狭屋甚五郎	大3
406	蒸気車出発	1872	若狭屋与市	大3
407	蒸気車出発時刻賃金附	1872	若狭屋与市	大3
408	横浜鉄道蒸気車之図	1872	森本順三郎	大3
409	横浜各国商館真図	1872	森本順三郎	大3
410	横浜本町海岸通り仏郎役館之図	1872	若狭屋甚五郎	大3
411	東京横浜鉄道往返之図	1873		大3
412	横浜新埋地高嶋町揚屋三階造 海岸遠景之図	1873	丸屋鉄次郎	大3
413	横浜鉄道館蒸気車往返之図	1873?	増田屋銀次郎	大3
414	横浜往返鉄道蒸汽車ヨリ海上之図	1874?	浜田屋鉄五郎	大3
415	横浜野毛伊勢山従海岸鉄道蒸気車ノ図	1874	紅栄堂蔦吉	大3
416	横浜名所図会 野毛山下蒸気車	1874	伊勢屋喜三郎	大横1
417	横浜海岸鉄道蒸気車図	1874?	万屋孫兵衛	大3
418	横浜郵便局開業之図	1875	報知社村田蔵	大3
419	東京横浜蒸気車鉄道之図	1875	加賀屋吉兵衛	大3
420	横浜異人館ヨリ蒸気車鉄道図	1876	丸屋鉄次郎	大3
421	異人玉転之図		太田屋佐吉	大3
422	従汐留横浜迄蒸汽車鉄道往返之図		具足屋嘉兵衛	大3
423	横浜波止場ヨリ海岸異人館之真図		辻岡亀吉	大3
424	横浜鉄道館蒸気車之図		堀江小山屋	団扇絵
425	東京築地開港異人館之図	1868	金隣堂	大3
426	東京築地ホテル館従庭上眺望之図	1868	丸屋鉄次郎	大3
427	東京幸橋御門の図	1868	新井	大3
428	東京幸橋之図			大3
429	東京名勝芝大門之図	1868	丸平	大3
430	東京名勝呉服橋之図	1868	上金	大3
431	東京府鉄砲州明石橋之景	1868	丸鉄	大3
432	東京名勝遊興寿吾六	1868	具足屋嘉兵衛	
433	東京築地ホテル館庭前の図	1868?	差配所	大3
434	東京築地ホテル館之図	1869	差配所	大3
435	東京府鉄砲洲異人館之図	1869	丸鉄	大3
436	明治二年巳春東京名勝芝神明宮之図	1869	佐野喜	大3
437	東京築地ホテル館	1870	若甚	大3
438	東京築地ホテル館	1870	政田屋	大3
439	東京築地波止場ホテル館之景	1870	政田屋	大3
440	流行車尽廻双六	1870		大3
441	東京繁栄流行の往来	1870	政田屋	大3
442	東京都日本橋御高札場之図	1870	上州屋金蔵	大3
443	東京自慢尾張町之図恵美寿屋	1870	丸屋	大3
444	東京名勝高輪ノ真景	1870	いせき	大3
445	東京繁昌馬車往返	1871	若狭屋甚五郎	大3
446	東京名勝高輪鉄道之図	1871	辻岡屋文助	大3
447	六郷川蒸気車往返之全図	1871	上州屋金蔵	大3
448	宇治信楽諸国御茶所（双六）			1
449	絶景一覧図	1871		15枚 1帖
450	東海道五十三次（二）高輪品川鉄道	1871		大縦1
451	東海道五十三次			4切 56枚
452	仏国スリエ大曲馬	1871		大3
453	浪花之嵐実録噺	1871	政田屋	大縦1
454	相州小田原道了宮 回向院ニテ開帳参詣の図	1871		大3
455	日光中禅寺波之利大黒天浅草金竜山奥山ニテ六十日間御開帳参詣群集之図	1871	海老林	大3
456	全盛富貴寿古録	1871	具足屋	
457	餘市早発	1871?	甘泉堂	大縦1
458	日本海兵横須賀港にて短艇を漕ぐ			半切横1
459	海運橋兜町為換座五階之図	1872		大3
460	東京第一國立銀行五階之図	1872	丸山鉄治郎	大3
461	汐留ヨリ横浜迄鐵道開業御乗初諸人拝礼之図	1872	海老屋林之助	大3
462	東京高輪海岸蒸気車鉄道図	1872	辻岡屋亀吉	大3

番号	作　　品	年代	板　元	形式
463	東京汐留鉄道御開業祭礼図	1872	萬　屋 孫兵衛	大３
464	御発車従新橋ステーション御乗車之図	1872	小　林 鉄次郎	大３
465	東京品川海邊蒸汽車鐵道之真景		辻岡屋 亀　吉	大３
466	東京八ツ山下蒸汽車往返鉄道之全図	1872	政田屋	大３
467	東京高輪海岸蒸気車鉄道之全図		藤岡屋	大３
468	横浜海岸通り之真景	1872	辻岡屋 亀　吉	大３
469	河原崎鶴見川蒸気車之図	1872	辻岡屋 文　助	大３
470	東京汐留鉄道館蒸汽車待合之図	1873	藤慶	大３
471	東京名勝高縄鉄道之図		辻岡文助	大３
472	東京汐留鐵道館蒸汽車往返図	1873	政田屋 英　吉	大３
473	東京品川海岸蒸汽車鉄道之図	1873	具足屋	大３
474	TOUKYOU SINAGAWA TETUDOU JOUKI HATU-SIYANOZU	1873	丸　屋 鉄治郎	大３
475	東京自慢名勝八景 日本橋暮雪（他七）	1871?	政田屋	大縦１
476	東京名所筋違萬代橋図	1872	万　屋 孫兵衛	大３
477	東京築地波止場ホテル館之眞景	1872	政田屋	大３
478	東京汐留鉄道館蒸汽車待合之図 東京横浜共賃金附	1873	伊勢屋 喜三郎	大３
479	東京汐留鐵道館蒸汽車待合之図		古河屋	大３
480	東京高輪真景蒸汽車鉄道之図		若狭屋 甚五郎	大３
481	東京名所之内新橋ステンション蒸汽車鉄道図		萬　屋 孫兵衛	大３
482	外桜田練兵場	1874		横大？１
483	駿河町	1873	よろづ や？	中横１
484	東京海運橋兜町為換座五階造ノ図	1873	政田屋	大３
485	東京蛎殻街第五國立銀行繁栄之図		萬　屋 孫兵衛	大３
486	第五國立銀行並商行会社新築之図			大３
487	中橋鞘町澤村座之図		萬　屋 孫兵衛	大３
488	日光中禅寺波之利大黒天浅草奥山開帳参詣群集之図	1873	海老林	大３
489	筑摩県博覧会	1873	博覧会社	大横１
490	東京名所之内 新橋ステンション蒸汽車鉄道図		萬　屋 孫兵衛	大３
491	東京名所　筋違萬代橋図		萬　屋 孫兵衛	大３
492	東京名所従日本橋北之通瓦斯燈夜之景		いせ兼	大３
493	東京名所　三井ハウス図するが町		辻岡屋 亀　吉	大３
494	東京駿河街国立銀行繁栄之図	1873	大　倉 孫兵衛	大３

番号	作　　品	年代	板　元	形式
495	東京名所従日本橋之比通瓦燈之景	1873	伊勢兼	大３
496	武蔵國東京上野山門東照宮御祭之図	1873	上州屋 金　蔵	大３
497	東京名勝筋違目鏡之眞景	1873?	辻岡屋 亀　吉	大３
498	東京開化名勝 京橋石造銀座通り両側煉化石商家盛栄之図	1874	伊勢屋 喜三郎	大３
499	東京名勝　銀座之通煉化石商家之図	1874	辻岡屋 亀　吉	大３
500	東京名勝　尾張町通煉化石之図			大３
501	三井ハウスの図			大３
502	東京名所京橋銀座通里煉瓦石瓦斯燈夕景ノ図	1874	伊勢兼	大３
503	東京名所之内 公園金竜山浅草寺壮観美麗群衆之図		浅野栄蔵	大３
504	河原崎座開業諸俳優乗込図		萬　屋 孫兵衛	大３
505	兎ばえ		大　西 庄之助	大１
506	東京名所　する賀町三ツ井組ハウスノ図	1874	若狭屋 甚五郎	大３
507	東京名所　新橋ステンション蒸気車之図	1874	山清	大３
508	東京名所　浅草金龍山境内よりすみた川略図	1874	政田屋 鉄五郎	大３
509	銀座通煉瓦石之図			大３
510	東京第一区蛎殻町弐町目第五國立銀行並ニ商行会社新築之図	1885	萬　屋 孫兵衛	大３
511	東京第一名所　永代橋之真景	1875?	伊勢屋 兼　吉	大３
512	大久保公帰朝図	1874	大黒屋	大３
513	東京名勝尾張町通煉瓦石造商家盛栄			
514	東京名所京橋従煉瓦石之眞図	1874	浜田屋 鉄五郎	大３
515	東京名所銀座通レンガセキ商家繁栄之図	1884	政田屋	
516	東京開化名勝筋違萬代橋景	1874		
517	東京銀座通レンガセキ両側繁栄図	1874?	政田屋	大３
518	東京名所第一大区煉瓦石造商家盛栄			
519	招魂社境内ニテフランス大曲馬	1874	ますだや	大３
520	東京名所之内　日本橋より江戸ばし之風景	1884?	萬　屋 孫兵衛	大３
521	東京名所之内　第一之風景永代橋	1875	丸亀	大３
522	東京名勝両国橋新築図	1875	加賀屋 吉兵衛	大３
523	東京名所両国橋之眞景	1875	山清	大３
524	筋違万代橋租税寮之図	1875	倉田屋 前兵衛	大３
525	東京開化名勝　筋違萬代橋			大３
526	東京名所　京橋銀座通里煉化石瓦斯燈夕景之図		伊勢兼	大３

番号	作　　品	年代	板 元	形式
527	東京常磐津總師匠江の島参詣の図		山清	大３
528	東京名所之内 上野公園地桜花盛之図	1880	野田茂政	大３
529	岩代国梁川中村商店図	1875?		大横１
530	東京名所新橋ステンション蒸汽車図	1876	山清	大横１
531	東京名所両国橋之景	1876	太田屋	
532	東京開化名所 鍛冶橋内東京裁判之真図		清水嘉兵衛	大３
533	東京開化名所 両国橋真景	1876	武川清吉	大３
534	東京名所之内 上野公園地不忍見晴図	1876	林吉蔵	大３
535	東京名所 荒布橋より五橋一覧之真景		内藤吉兵衛	大３
536	東京名所 京橋区銀座通尾張町煉瓦造之真景			大３
537	官許牛角力	1876	植木林之助	大２
538	横浜郵便局開業図 郵便報知新聞第五百五十七号付録	1876	報知社村田蔵	大３
539	東京名所荒布橋より五橋一覧k之真図	1876	内藤善次郎	大３
540	東京浅草石橋ヨリ神田川柳橋之図		森川	大３
541	東京名所 八代洲町 警視庁火消出初階子乗之図		小林	大３
542	東京名所 両国報知社図		熊谷庄七	大３
543	皇后宮様西京行啓従新橋ステーション御乗車之図	1876		大３
544	奥州御巡幸 日光山御巡覧ノ図	1876	山根金三郎	大３
545	明治九年六月二日奥州御巡幸万世橋之真景	1876	植木林之助	大３
546	明治九年六月二日奥羽御巡幸萬世橋之眞景			
547	筋違萬代橋租税寮之図	1875	倉田？	大３
548	両国橋新築図			大３
549	東京名所 永代橋之真景			大３
550	東京名所 両国橋之図			大３
551	東京名所 新橋ステンション蒸気車之図	1875	山清	大３
552	東京名所之内 浅草金龍山聖観世音境内の図		岡本懐徳	大３
553	東京名所之内新橋ステンション	1879	辻岡文助	大３
554	東京名所之内 京橋通之真景（読売新聞社）		武川清吉	大３
555	東京名所之内 九段坂上靖国神社之図	1880	野坂茂政	大３
556	東京名所 日本橋区浜町魚鳥市場川魚商社繁栄之図		井上茂兵衛	大３
557	御発輦従新橋ステーション御乗車之図	1877	小林鉄次郎	大３
558	西京神戸之間鉄道開業式諸民拝見之図		福田熊治郎	大３
559	上野公園地於不忍池内国勧業博覧会開場大花火之図		浅野栄蔵	大３
560	内国勧業博覧会美術館之図	1877	熊谷庄七	大３
561	東京名所 常磐橋内紙幣寮新建之図	1877	小林平次郎	大３
562	各隊整列図	1877	林吉蔵	大３
563	生徒勉強東京小学校教授雙録			
564	鶴岡公園地之図	1877		団扇絵
565	東京新橋ステーション之図	1877	山城屋	団扇絵
566	鹿児島戦争図会（鹿児島戦争を九図にわけて一面に描く）	1877	松村甚兵衛	大縦１
567	地本錦絵双紙団扇問屋	1877?	紅英堂蔦屋林吉蔵	大横１
568	上総天神山海岸	1877?	小義社	団扇絵
569	日本名所内 近江三井寺之観音	1877?		団扇絵
570	東京名所 兜町米商会所 鎧稲荷祭禮之真図	1878	山中市兵衛	大３
571	東京名所内竹橋内近衛兵営	1887?		大３
572	東海道五十駅すごろく御巡幸名所双六	1878	松村甚兵ェ	
573	築地海軍省於練場風船御試之図	1877	林吉蔵	大３
574	東京名所之内目黒夕日が岡の図	1878		半切１
575	大日本産物雙六	1878		
576	東京名所之内 京橋通の真景	1879	松井栄吉	大３
577	東京名所之内 新橋汐留蒸気車鉄道局停車館之真図	1879	浅野栄蔵	大３
578	東京名所 銀座通朝野新聞盛大之真図		大倉	大３
579	東京名所之内浅草金龍山ノ図	1879	林吉蔵	大３
580	東京名所之内 米国前大統領グランド公市中遊覧日本橋大国旗壮観之真景	1879	浅野栄蔵	大３
581	米国前大統領グランド公市中遊覧日本橋大国旗壮観真図		山中比郎	大３
582	上野公園地御臨幸各区花山車練込図	1879	松浦浅次郎	大３
583	久松町劇場久松座繁栄之図	1879	福田熊次郎	大３
584	荒布橋従江戸橋之真図	1879	熊谷庄七	大３
585	東京馬喰町三街目中屋旅亭開業図			大２
586	花盛四季之図中	1879	水野	大３
587	東京自慢尾張町之図	1879		
588	東京名所之内京橋通り之真景	1889	松井栄吉	大３
589	東京赤坂御苑花菖蒲御遊覧並高尾山遠望之図	1880	林吉蔵	大３
590	上野公園地御臨幸各地花出三練込之図	1879		大３
591	東京名所之内上野公園地桜花盛の図	1880		大３

番号	作品	年代	板元	形式	番号	作品	年代	板元	形式
592	東京名所之内 九段坂上靖国神社之図	1880	野坂茂政	大3	626	福笑女官之戯	1880	小林鉄次郎	大3
593	地方官会議開院式図	1880	林吉蔵	大3	627	東京名所寿留賀町三ツ井店両側富嶽眺望之図	1881		大3
594	東京名所内火消役出初楷子祭之図	1880			628	東京名所之内 銀座通煉瓦造鉄道馬車往復之図	1882	大倉孫兵衛	大3
595	明治十三年六月御巡幸松本御通	1880	高美甚左衛門	大3	629	東京名所 京橋鉄道馬車往復煉瓦家之図		荒井喜三郎	大3
596	御行幸御発車之図	1880	山本与市	大3	630	東京名所 鉄道馬車往復上野公園山下之図		榎本義兵衛	大3
597	地方長官会議	1880		大3	631	鉄道馬車往復京橋煉瓦造ヨリ竹河岸図	1882	阿ら井亀吉	大3
598	父母の恩を知る図			大3	632	鉄道馬車往復日本橋之真景	1882	大倉四郎兵衛	大3
599	米俵網引之図	1880	林吉蔵	大3	633	東京開華名所図絵之内九段坂常夜燈	1882	舟津	大縦1
600	子の出来るはなし	1880	林吉蔵	大3	634	東京名所九段坂上靖国神社庭中之景	1882		大3
601	花鳥図会 きく 蒿雀 すずめ	1880	植木林之助	大縦1	635	於隅田川海軍之端舟競走水雷火試発天覧之図	1883	辻岡文助	大3
602	福笑女官之戯	1880～1	小林鉄次郎	大3	636	堀切の菖蒲		植木林之助	大縦1
603	買運気十八番ノ内奸人商山師問答	1880		大3	637	人形町通水天宮		丸鉄？	大縦1
604	東京名所年中行事五月亀井戸天神社内藤能花	1880	草周平	大縦1	638	東京上野鉄道開業式諸民拝見之図	1883	井上茂兵衛	大3
605	新撰さわ里都々一第二号	1880		大縦1	639	不二詣諸品下山之図	1883	植木林之助	大3
606	大日本産物雙六	1880			640	東京高崎汽車往返之図	1884	松本平吉	大3
607	東京上野公園地第二回内国勧業博覧会開場之図	1881	松葉周吉	大3	641	東京名所 浅草釣橋鉄道馬車往復之図	1884	木村清助	大3
608	上野公園内國勧業第二回博覧会美術館並猩々噴水器之図	1881	林吉蔵	大3	642	東京名所 神田区大通アサヒヤ商店繁栄之真図	1884	小林平治朗	大3
609	東京名所 上野公園内国勧業博覧会美術館並噴水器之図	1881	林吉蔵	大3	643	東京名所浅草釣橋鉄道馬車往復之図	1884	木村清助	大3
610	東京名所上野公園内国勧業博第二回博覧会美術館図	1881	松葉国三郎	大3	644	東京開化名所 大手町大蔵省	1884	亘市兵衛	団扇絵
611	第二回上野博覧会之図	1881	ひらのや	大3	645	東京名所神田区大通アサヒ商店繁栄之図	1884		大3
612	芝紅葉館開業之真図	1881	大倉孫兵衛	大3	646	東京高崎汽車往返之図	1884	松木平吉	大3
613	芝公園紅葉館楼上之真図	1881	大倉孫兵衛	大3	647	日比谷於練兵場 陸軍諸隊整列之真図	1884	林吉蔵	大3
614	東京名所第一之勝景 墨水堤花盛の図	1881	根本正昭	大3	648	女官養蠶図	1884	山本与一	大3
615	東京第一之劇場 新富座大当ノ図	1881	小の藤三郎	大3	649	富貴草 乙鳥 藤の花	1884?		大2
616	東京名所 従上野公園不忍池中嶋弁天之景	1881	松葉周吉	大3	650	東京名所内 第一之靈場 浅草金龍山境内之全図	1885		大3
617	東京名所之内 赤坂仮皇居御出口之図	1881	平野伝吉	大3	651	根津花屋敷大松葉楼全盛揃之図	1885	佐々木豊吉	大3
618	東京名所 浅草公園地 金竜山浅草寺図	1881	平野伝吉	大3	652	東京深川公園於諸靈場の開帳参詣群集之図		大倉孫兵衛	大3
619	東京名所 寿留賀町 三井店両側富嶽眺望之図	1881	松葉周吉	大3	653	東京上野公園 繭絲織物陶器漆器共進会場図	1885	大倉孫兵衛	大横1
620	諸国名所之内甲 猿橋遠景	1881	小林鉄次郎	大3	654	東京深川公園ニ於テ下総成田不動尊並芝山仁王像宗吾霊像開帳群衆之図	1885	大倉孫兵衛	大3
621	日本三景之内 厳島神社	1881	松葉周吉	大3					
622	高祖日蓮大菩薩六百年報忌	1881	上村清左衛門	大3	655	五品共進会場之図		大倉孫兵衛	大縦1
623	婦人教訓鏡	1884		20枚1帖	656	米俵綱引きの図		林吉蔵	大3
624	明治十四年御巡幸秋田寺内招魂社之図	1881	山中喜太郎	大3	657	東京名所之内 日本橋区小傳馬町祖師堂鬼子堂諸人参詣群集之図	1887	三宅平四郎	大3
625	府県長官銘々伝	1881							

番号	作　　品	年代	板 元	形式	番号	作　　品	年代	板 元	形式
658	東京府下第一霊場浅草公園地金竜山境内之全図	1887	長谷川常次郎	大3	675	東京名勝浅草橋両国橋之眞景			大3
659	大日本帝国造営御所之図	1888	加藤兵太郎	大3	676	浅草金竜山観音之由来	1890	福田トヨ	大3
660	東京名所之内 九段坂上靖国神社之図	1888	勝木	大3	677	徳川御代替将軍宣下國主だいみょう登場之図	1890	荒井喜三郎	大3
661	大日本東京吾妻眞図	1889		大3	678	東京名所 銀座通りレンガセキ商家繁栄之図		政田屋	大3
662	憲法発布式大祭之図	1889		大3	679	古今東京名所 上野黒門口	1883	辻岡文助	中横1
663	上野公園於開説第三回内国勧業博覧会之略図	1890	福田	大3	680	古今東京名所 上野公園地名坂	1883	辻岡文助	中横1
664	近江八景全図（紫式部）	1890	長谷川常二郎	大3	681	東京名所図会 靖国神社		秋山武右衛門	大縦1
665	東京自慢名勝八景 永代の帰帆			大縦1	682	東京名所第一国立銀行		松栄	大横1
666	友寿々女みちくさ双六（子ども絵）				683	東京名所之内 江戸橋三菱蔵郵便局			大横1
667	東京名所 一覧寿語六（七十景）		松葉屋		684	東京浅草石橋ヨリ神田川柳橋之図		森本順三郎	大3
668	宝山松開花双六（周延国周他と合作）		堺屋		685	選出江戸四十八景（初代江戸百景の内）	1891	児玉又七	大縦1
669	各隊整列之図	1893?	林吉蔵	大3					
670	東京土産名勝図会 隅田堤満花				686	秋葉神社境内 初代広重の碑建立の報条	1882		大縦1
671	東京名所「石橋一覧図」			大3	687	初代広重碑下絵	1882		
672	都々一入り芸妓双六 開化絵入		福田屋		688	不二詣諸品下山野図	1883	植木林之助	大3
673	東都築地異人館海岸より見る図			大3	689	古今誠画 浮世絵類考之内（幻大夫と根津松葉屋庭園）	1884		大3
674	書画共進会	1882	水野幸吉	大縦1	690	近江八景（初代原画）唐崎夜雨	1891	児玉又七	大縦1